

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 28年 1月 28 日

協議会名:有田市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
中紀バス株式会社 A-1～A-3系統	有田市全域を運行するコミュニティバス運行(一部デマンド方式)	前回の評価結果では、ダイヤ改正の周知不足による乗客数の減少が見られたため、市内各所に時刻表を配布し、利用促進につながるよう努めた。また、利用客のニーズ把握のためのアンケート調査を実施した。	A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 事業としては、公共交通空白地域を解消し、安定してサービスを提供するという目標は達成されたが、利用人員については前年度比約22%減少した。	利用促進を図る為、PR方法を充実させるとともに、利用者ニーズの把握に努める。
中紀バス株式会社 B-1～B-3系統	有田市全域を運行するコミュニティバス運行(一部デマンド方式)	前回の評価結果では、ダイヤ改正の周知不足による乗客数の減少が見られたため、市内各所に時刻表を配布し、利用促進につながるよう努めた。また、利用客のニーズ把握のためのアンケート調査を実施した。	A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 利用人員については、前年度比約11%増加し、事業が計画に位置づけられた目標を達成した。	引き続き利用促進の為のPR方法を充実させる。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 28 年 1 月 28 日

協議会名:	有田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>有田市は東西約10km、南北約5km、総面積36.89km<sup>2</sup>で中央部を流れる有田川が市域を南北に二分している。本市においては、従前より交通事業者により不採算バス路線を維持運営してきたが、利用客数の著しい減少による撤退を余儀なくされた。また、他の公共交通機関としては、JRが3駅あるが、いずれも河北地域に集中している。こうした現状をふまえ、市民生活の中で買い物や通院などの交通手段として、利便性に富み、かつ低運賃で乗車できるバスの運行が必要不可欠なものになっている。</p> <p>全国的な少子高齢化と同様、本市においても交通弱者といわれる高齢者数が増加傾向にあり、今後も高齢者のみの世帯や一人暮らしの世帯が増えてくるものと思われるため、出来るだけ交通空白地帯の解消が図られるとともに安定してサービスを提供し続けることができる採算性の高い交通システムを再構築することにより、高齢者による交通事故をなくし、マイカーなしでも通院や買い物が出来、快適に暮らせる地域づくりを目指す。</p>